

平成 28 年度金沢大学資料館事業報告

The Activity Report of Kanazawa University Museum in 2016

金沢大学資料館長 奥 野 正 幸

Masayuki OKUNO

1. はじめに

本紀要の前号において平成27年度の金沢大学資料館（以下、資料館）で1年間に実施した展示活動等を中心に報告した（文献1）。平成28年度は、資料館展示室における企画展・特別展等のほか、2回のアウトリーチ展を実施し、そのうち1回は新しい試みとして学外機関と共同で展覧会を開催した。また、展示活動の他、展示に関連した特別講演会、資料館紀要や資料館だよりなどの刊行物の発行も行った。さらに、平成28年4月には文部科学大臣から「博物館に相当する施設」の指定を受けた。このほか、資料館は博物館としての機能の他に、文書館としての機能を有しており、それに関連して資料館で所蔵する多くの貴重資料のリファレンス活動なども実施した。なお、資料館の概要等については、文献2及び3を参照されたい。

本稿では、平成28年度の資料館展示活動の報告を行うとともに、その他の事業についても報告する。

2. 平成28年度の展示活動等とその特徴

ここでは、資料館で平成28年度に行ったさまざまな展示活動の取り組みについて報告する。すでに報告しているように（文献1）、資料館では常設展示部分と企画展示部分を固定せず、スペースや展示資料の配置を調整しながら、常設展と同時に企画展・特別展を開催していたが、平成28年度も同様な方法によって常設展と同時に企画展を開催した。平成27年度に引き続き、平成28年度も多くの展覧会を開催し、資料館展示室の年間入場者数は7,558人を数え、アウトリーチ展については、金沢城河北門での展示に10,112人、石川四高記念文化交流館での展示には、2,905人の来場者を数えた。河北門での展示は、その会場の特性から入場者の多くは観光客であったと推察されるが、資料館展示室および石川四高記念文化交流館での展示に限っても、合計10,463名の入場者があった。ここでは、それぞれの展示等の概要と特徴を報告する。

2-1. 資料館常設展（資料館展示室）

上述のとおり、常設展は企画展及び特別展の規模により、展示物の数や配置及びスペースを調整して開催した。ここでは、常設展示の主な展示について報告する。

常設展示の主な展示物としては、第一に加賀藩の藩校であった明倫堂と経武館の扁額があげられる(写真1)。藩校は、寛政4年(1792)に11代藩主前田治脩(はるなが)によって創設され、金沢大学の源流ともいえる。明倫堂の扁額の揮毫(きごう)は、初代学頭の新井白蛾によるものである。また、経武館の扁額は、明倫堂のものより少し小さく、前田土佐守直方によって揮毫されたものである。この2つの扁額は、現存する諸藩校の扁額の中でも最大級のものであり、平成29年6月29日に金沢市の指定文化財となった。これ以外にも、加賀藩武士の具足、前身校の金沢高等工業学校に置かれていた大型のシャンデリアや第四高等学校の講堂に掲げられていた小松宮彰仁親王の揮毫による「至誠」の扁額、ならびに平安時代のもと考えられる木造仏など主に大型の収蔵品が展示されたほか、金沢大学の直接の前身校に関するパネル等も展示された。



写真1 加賀藩校の扁額 明倫堂(左)、経武館(右)

2-2. コレクション展2016 ナニコレ(資料館展示室)

企画展として、まず、「コレクション展2016 ナニコレ」が平成28年4月6日から9月21日にかけて開催された。コレクション展は、平成27年度から開始した企画であり、この展覧会ではこれまで資料館で収蔵してきた学術資料をコレクションごとに展示している。資料館には、学術資料約76,000点、文書資料約11,000点という膨大な数の資料が収蔵されている。これらは前身校を含む金沢大学の長い歴史を象徴する貴重な資料であるが、その中には現代の私たちから見れば名前や用途、作り方がわかりにくいものがある。今回の展覧会のタイトル「ナニコレ」は「一見すると何かわからないコレクション」あるいは「何これ？」からとったものである。

今回の展示では、サイレン、キノコムラージュ、島津製作所標本部製造の前世紀動物模型(恐竜やマンモス等)、江戸時代の庶民の日記(梅田日記)および20世紀の発明であるフロッピーディスクドライブなど多数の資料を展示し、来館者の注目を集めた(写真2)。また、展示資料のいくつかに関するクイズを出して、楽しみながら観覧できるように工夫した(図1)。



写真2 コレクション展の様子



図1 コレクション展のポスター

2-3. 資料館が「博物館に相当する施設」の指定を受ける

資料館は、平成28年4月26日付けで文部科学大臣から「博物館に相当する施設」の指定を受けた。博物館法（文献4）による博物館には、「登録博物館」と「博物館に相当する施設」がある。「博物館に相当する施設」とは、博物館の事業に類する事業を行う施設で、文部科学大臣又は都道府県等の教育委員会が指定するものである。資料館は、これまで博物館と同種の事業を行う「博物館類似施設」であったが、今回の指定により、博物館法の適用を受ける施設になった。なお、「博物館に相当する施設」としては、北陸三県の大学では初めての施設である。指定を受けたことを契機として、資料館としては学内外の方々の協力を得て、博物館としての活動を一層充実させ、教育、研究、そして社会に貢献する事業を進めたいと考えている。

2-4. 出張展示「電信小史」（自然科学系図書館）

資料館のコレクションを学内に広く周知するために、自然科学系図書館でアウトリーチ（出張）展示を平成28年5月18日から6月22日にかけて行った。本展示では、資料館の主要なコレクションである、第四高等学校で使用されていた物理実験機器から、本展示のテーマに合わせ電信の歴史におけるイノベーションともいえるモールス氏電信機と文字電信機を展示した。特に、モールス氏電信機は明治11年（1878）に文部省（現文部科学省）から交付されたもので、現存する機器の中でも数少ない古典的電信機器のひとつである。また、自然科学系図書館からも電信に関連する図書が展示された。

2-5. 新学術創成研究機構パネル展「研究の顔」（資料館展示室）

この展示会は、金沢大学で実施されている最先端研究の一端を在学生や一般市民に知っていただくことを目的とする、資料館として初めての試みであった。金沢大学の学術創成研究機構において実施されている、先端的研究を紹介するパネル展示会を平成28年7月7日から9月9日にかけて開催した。学術創成研究機構の研究部門である「がん進展制御研究コア」「革新的統合バイオ研究コア」「未来社会創造研究コア」の各研究ユニットの研究概要を紹介したパネルを展示したほか、自動車の自動運転走行試験の様子やカップドキア（トルコ）の岩窟聖堂の3Dコンピュータ・グラ

フィックスを映像で紹介した。

新学術創成研究機構は、国際的に特筆される研究の更なる強化、学問分野融合型研究の一層の進展および国際頭脳循環の継続的拡充を一体的に推し進めることにより、革新的な研究成果を生み出し、新しい学問分野・学問領域の創成につながる学際的な研究を推進することを目的として平成27年度に設置された組織である。

2-6. 日本物理学会秋季大会記念スポット展示

「金沢大学前身校由来の歴史的物理実験機器」(資料館展示室)

日本物理学会2016年秋季大会金沢大会において、「歴史的物理実験機器と物理教育」と題するシンポジウムが開催されたことを記念し、また日本物理学会の要請を受けて、資料館では、平成28年9月13日から9月21日にかけて「金大資料館コレクション展2016：ナニコレ」の物理実験機器ブースを拡大し、スポット展示を行った。金沢大学の前身校である第四高等学校などで教育・実験に使われていた物理実験機器は、科学史、教育史において極めて貴重な資料群であり、今回の展示では250点を超える機器コレクションの中から20点を展示した。中には明治期のものもあり、100年以上前の旧制高等学校や旧制高等学校の学生がどのような機器で学んでいたかを知ることができる。日本物理学会のシンポジウムでの2件の講演（四高物理実験機器コレクションの保存と活用：金沢大学 古畑徹氏、四高由来の物理実験機器と物理教育：大阪経済法科大学・永平幸雄氏）と協調し学会期間中多くの見学者があった。

2-7. 特別展「ガラスの博物誌」(資料館展示室)

この特別展は、平成28年10月12日から11月30日にかけて金沢大学理工研究域・金沢大学埋蔵文化財調査センター・旭硝子株式会社の協力を得て開催された。特に、金沢大学理工研究域所蔵の正倉院ガラス器のレプリカと天然のガラス資料を中心に、金沢大学資料館・金沢大学埋蔵文化財調査センター・旭硝子株式会社に所蔵されているガラス関係の資料などについての展示を行い、1,561名の入場者があった。

この展覧会は、現代社会のさまざまな分野で利用されている「ガラス」について、多角的に紹介し、理解を深めていただくことを目指して企画したものである。特に、歴史ガラスの研究家である箱根ガラスの森美術館顧問の由水常雄氏の全面的な協力のもとに、ガラスの起源についての説明のほか、奈良・正倉院に所蔵されている6点の歴史的ガラス器の写真とレプリカを、その伝来ルートのパネルとともに展示・紹介した(文献5)。また、本学理工研究域の協力の下、自然界に存在するガラス質の鉱物および生物についても展示した。特に、ほぼ純粋なシリカガラスでできているガラス海綿(文献6)の骨格標本は入館者の注目的となった。さらに、本学埋蔵文化財調査センターの協力を得て、角間キャンパスから出土した9世紀ごろに西アジアで製造されたと思われる紺色ガラスビーズも展示された。資料館の所蔵品としては、西村コレクションの中から古代ペルシャガラス器と旧制第四高等学校旧蔵の「硝子製造順序標本」を展示した。そのほか、旭硝子株式会社の協力を得て、現代における板ガラスの製法を解説し、代表的な板ガラスとスマートフォン等で使われている化学強化ガラスについて製品を展示し、パネルで製造方法を解説した。

今回の展示は、一般的なガラス工芸品の展示とは一味違ったアプローチで、新聞やテレビでも紹介されるなど多くの方に注目され好評であった。なお、本展示会の内容については、図録「ガラスの博物誌」として資料館Webサイトに掲載されているので、参照されたい(文献7)。

また、会期中に前述の由水常雄氏による特別講演会「私のガラス研究50年 ―古代ガラスから現代の先端技術まで」を開催し、56名の参加者があった。講演の内容は由水氏の専門である古代ガラスやガラスについての貴重な歴史的秘話を始め、将来のガラス研究についての夢も語られ、非常に興味深いものであった。

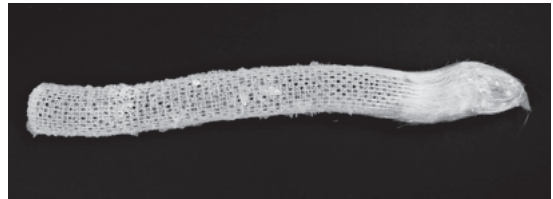


写真3 正倉院ガラスのレプリカ（紺瑠璃の杯：左）とガラス海綿（右）

2-8. 「OB展 i-Acanthus Ars 2016」（学校教育学類美術教育専修展覧会）（資料館展示室）

本展覧会は、平成13年度より毎年開催され、平成28年度は卒業生を中心とした美術展であり、絵画、デザイン、工芸などさまざまな作品が展示された。新学術創成研究機構パネル展同様、校内での活動の成果などを展示することは重要であり、今後も、このような展示を行っていきたい。

2-9. 出張写真展「よみがえる城内キャンパス」及び出張展示【学生企画】「破かれた恋愛小説～『寒潮』に翻弄された四高生～」（金沢城公園河北門内）

本出張展示は、平成28年10月25日から11月4日にかけて開催された。写真展は、金沢大学のキャンパスが、金沢城内におかれていた時代の写真を展示する企画である。金沢大学のホームカミングデー（10月29日）に協力する形で平成21年度から毎年開催されている。また、平成28年度は、写真展と同時に同会場において、平成27年度に資料館展示室で開催し、好評であった博物館実習生による企画展「破かれた恋愛小説～『寒潮』に翻弄された四高生～」(文献8)を同時に開催した。この試みは、金沢市の市街地の中心にあるこの会場で企画展を再度開催することにより、郊外にある金沢大学角間キャンパスの資料館まで来館することができない方々にも広く見学していただくことを目的とした。この展示会には、会場自体が観光施設であることから、10,112名もの入場者があった。

2-11. 金沢大学資料館・石川県立自然史資料館 共同企画展

「キキ ―四高生が100年前に使った科学実験機器」

（石川四高記念文化交流館多目的利用室1）

本企画展は、金沢大学資料館として初の本格的なアウトリーチ展であり、また初その他機関（石川県立自然史資料館）との共同企画展となった。金沢大学資料館と石川県立自然史資料館は、金沢大学の前身校である第四高等学校旧蔵の科学実験機器を多数所蔵している。これらの機器は、この展

覧会の会場である石川四高記念文化交流館が、第四高等学校の校舎であった時代に、実際に学生たちが授業や実験で使用したものである。古いものでは、明治11年から使用されていたものも展示された。会場が、金沢の繁華街やビジネス街に近接していることから、短期間の開催であったが、2,905名もの入場者があった。



図2 企画展のポスター

2-12. 学生企画展「ハカリモノ—文系学生が紹介する科学実験機器—」

(金沢大学資料館展示室)

この学生企画展は、学芸員養成課程のまとめとして平成26年度から開催されている。今年度は3回目、平成28年12月9日から平成28年3月17日にかけて開催された。学芸員資格の取得を目指す学生が、テーマ設定および具体的な展示内容まで自身で考えた企画である。今回の企画は「天(宇宙)」、「地(地球)」及び「海」をテーマとして、それぞれを「ハカル」機器を紹介したものである。特に、古くは江戸時代に加賀藩で使用されていた「し景儀」と呼ばれる携帯式の日時計は、太陽や月の運行を説明する現在のプラネタリウムとも呼べるものである。また、天体の運行を示す「渾天儀」(文献9)を始め、第四高等学校科学実験機器の中から船の運航に重要な役割を果たした六分儀や光の速さに対する地球の軌道運動の速さの比を求めるために作成されたマイケルソンモーリー(マイケルソンモーリー)干渉計など非常に珍しい資料が展示された。これらの展示を金沢大学宇宙物理研究室などの協力を得ながら文系学生が紹介していることが大きな特徴と言える。また、本企画展示に合わせて、「天」、「地」、「海」のテーマに関係したコンサートや、「し景儀」を作成するワークショップなどを開催し、本展覧会を盛り上げた。なお、金沢大学資料館紀要第13号(本号)に、この学生企画展についての論考が掲載されているので、参考にされたい。



図3 学生企画展のポスター

3. その他の主な活動

先に述べたように、資料館の使命は展覧会の開催にとどまらない。以下に主なその他の主要な活動の概略について紹介する。

3-1. 公文書の保管・閲覧

資料館では、公文書の収集保管事業も行っており、「公文書の管理に関する法律」(以下、公文書管理法)施行前に移管された第四高等学校等の公文書など多くの重要な文書を保有している。また、これらの文書資料に対する閲覧および問い合わせなどへの対応活動も行っている。ただし、資料館は「公文書管理法」に対応した「国立公文書館等」の指定を受けていないため、貴重な大学史資料が廃棄されることがないように、保存期間が満了した法人文書から貴重文書を選別し、文書管理者に保存期間延長を要請した。

3-2. 資料の整理・修復と受入れ

展示を支える重要な活動として、既存資料の整理作業、新たな資料の受入れ、及びそれらの修復事業がある。平成28年度、資料館ではすでに収蔵されながら、整理されていなかった資料1,640点の整理を行った。また、平成28年度に、新たに691点の資料が寄贈・移管された。その資料の多くは、第四高等学校関係の資料であった。修復事業としては、石川県文化財保存修復工房に依頼して、「成医学校蔵版 人体局所解剖図」が修復された。

3-3. 外部資金の獲得

資料館の重点事項として掲げている外部資金の獲得については、住友財団の文化財維持・修復事

業助成が採択され、資料館の重要な資料である「新刻日本輿地路程全図」の修復を平成29年度に行えることとなった。このような、外部資金の獲得は今後の資料館の運営にとって益々重要になると思われる。

3-4. 授業等への協力

資料館では、平成28年度は以下のような授業等への協力を行った。

- ・人文学類の「地域概論」の一コマを担当。資料館の概要説明と展示室及び収蔵庫の見学を実施した。(150名、4月28日)
- ・「博物館展示論」の授業において、資料館実習を行った。(34名、4月25日)
- ・「天の川プロジェクト」で来日した、スペインおよびポルトガルの留学生に対して、資料館見学・実習を行った。また、掛軸実習と拓本実習も行い、日本の歴史と文化を体験してもらった。(4月22日、6月3日・6日)
- ・「博物館実習」の授業では、資料館の収蔵庫や資料整理などバックヤードの見学を行うとともに、最重要テーマである「学生企画展」の実習作業の指導補助を担当した。

3-5. 情報発信

資料館の展覧会やその他の事業の情報を発信することは、資料館の利用促進ならびに認知度の向上に非常に重要であり、従来から、いくつかの情報発信事業を続けている。以下に主な情報発信事業について紹介する。

- ・『資料館だより』(第50号：5月発行、第51号：9月発行、第52号：1月発行)
『資料館だより』は平成2年に創刊された広報誌であり、資料館の展示活動の紹介を中心にさまざまな資料館の事業を紹介するとともに、資料館実習の学生などの感想などを掲載している。
- ・特別展図録『ガラスの博物誌』(10月発行) 10月から11月にかけて開催された平成28年度金沢大学資料館特別展「ガラスの博物誌」についての図録で、展示概要だけでなく、由水常雄氏による「ガラスの起源」や「正倉院ガラスの不思議な千変万化について」などの興味深い記事も掲載され、さまざまなガラスの情報が網羅されている。
- ・『金沢大学資料館リーフレット』を、資料館の活動の現状に合わせて更新した。(3月発行)
- ・『金沢大学資料館紀要 第12号』を発行した。学生による企画展の事例報告と平成27年度の金沢大学資料館展示活動報告が掲載された。(3月発行)

3-6. 研修会等参加活動

資料館では、学芸員をはじめ資料館職員の知識や技術の向上および他の博物館の情報を収集することを目的として、さまざまな会議、学会および研修会への参加・派遣事業を行っている。主な参加事業を以下に報告する。

全国博物館館長会議

平成28年度全国博物館館長会議(第23回)が、平成28年6月8日に文部科学省講堂において開催され、資料館長が出席した。本会議は、日本博物館協議会・文部科学省・文化庁の共催で開催され、文部科学省ならびに文化庁からは博物館関連施策の報告等が、日本博物館協議会からは、2019年に日本(京都)で開催予定の国際博物館会議 京都大会(ICOM Kyoto 2019)についての紹介等が

なされた。

第19回大学博物館協議会および第11回日本博物科学会広島大会

平成28年度の大学博物館等協議会および日本博物科学会は広島大学の東広島キャンパス学士会館で開催され、本学から資料館長外2名が参加した。開会の挨拶では、広島大学長の越智光夫氏および同大学総合博物館長の岡橋秀典氏から、博物館は大学を活性化する潜在能力を多分にもっているとの話があった。また、同大学の大塚攻氏による「生物多様性の危機を大学博物館から考える」と題した特別講演があり、自然科学系を中心とした博物館ならではの内容であった。また、館長会議では2015年度決算および2016年度予算が承認された他、第21回協議会の開催校を香川大学と決定した。日本博物科学会ではさまざまな分野の研究発表があり、活発な意見交換がなされ、施設見学では、総合博物館だけでなく、緑豊かなキャンパスをそのまま展示した「発見の小径」の散策もあった。{(文献10)より部分的に引用}

紙資料補修体験会

平成28年7月7日・8日の両日、(株)ブリザベーション・テクノロジーズ・ジャパン(埼玉県大宮市)の工場見学会・補修体験会に、資料館職員が参加した。同社は、酸性化した古い資料を脱酸性化する「ブックキーパー」という特許技術を用いて、傷んだ資料を修復し、保存期間を延長する事業を行っている。参加した職員は、紙の破れの補修や綴じなおしの作業をした後、資料を酸化マグネシウムが主成分の処理液に浸して脱酸するなどの補修作業を体験し、日常業務に直結する技術を学んだ。{(文献10)より部分的に引用}

4. まとめ

最後に、平成28年度の資料館活動についてまとめておく。平成28年度は、資料館展示室の入館者数は、7,558人ととどまり平成27年度の入館者数より約8%の減少となったが、過去2番目の数であった。減少の原因としては、平成27年度には金沢大学で大学博物館等協議会および博物科学会を開催し、その際に多くの学会関係者の入場があったことが考えられる。他方、学外のアウトリーチ展の入場者数は、10月から11月にかけて金沢城河北門で開催した「城内展」には、金沢城が観光スポットということもあり10,122名にのびった、また、12月に石川四高記念文化交流館で開催した「キキ展」には2,905名の入場者があった。「城内展」の入場者は、河北門の見学を目的としたものが大半と考えられるが、この展示を通して多くの人々に、20世紀末まで金沢城内に金沢大学のキャンパスがあったことを知ってもらえたことは、大学にとって非常に意義があったと思われる。石川四高記念文化交流館の入場者は、明らかに「キキ展」の見学を目的にしたと考えられる。このように、アウトリーチ展は、多くの学外の人々に金沢大学の歴史を伝える上で非常に有意義であったといえる。

コレクション展は、平成28年度で2回目の開催となるが、平成27年度以上の入場者があり今後定着した企画になるものと期待される。また、金沢大学の先端的な研究を紹介した「新学術創成機構パネル展」は、資料館としては新しい試みであり今後の展示の重要なテーマとしたい。さらに、特別展「ガラスの博物誌」は今までにない視点の展覧会であり、今後理系の標本を含む展示は、総合大学としての金沢大学にとって重要になるものと考えられる。

また、本稿では学術資料の展示のみが資料館の重要な事業でなく、資料の整理や修復及び公文書の収集・閲覧なども非常に重要な使命であることを述べた。今後も、このような活動を含め、多岐にわたる活動が必要であり、資料館のみならず金沢大学にとってもその社会貢献ならびにステータスの向上のために重要な役割を果たすものとする。

謝辞

本原稿をまとめるにあたって、資料館職員ならびに情報部の職員の皆様に、さまざまな情報を確認いただくとともに原稿についても多くの助言をいただいた。この場を借りて、心より御礼申し上げます。

引用文献

1. 奥野正幸, 「平成27年度金沢大学資料館展示活動報告」, 金沢大学資料館紀要, 12, 21-29, 2017年
2. 金沢大学資料館, 「金沢大学資料館概要」, 金沢大学資料館だより, 21, 2-6, 2003年
3. 有村誠, 「金沢大学資料館の学芸員養成プログラムにおける取り組み ―大学博物館の原風景―」, 金沢大学資料館紀要, 10, 27-36, 2015年
4. 博物館法施行規則 2009年
5. 由水常雄「NHK人間大学 ガラスと文化 その東西交流」, 日本放送出版協会, 1997年
6. Vikram C.S., Andrew D.Y., John L.G., Micha I. and Joanna A., ” Fiber-optical features of a glass sponge”, Nature, 424, 899-900, 2003年
7. 金沢大学資料館, 平成28年度金沢大学資料館特別展「ガラスの博物誌」図録, 2016年
8. 笠原健司, 笠原朋与, 野村将之, 虫明慧子, 渡辺 司, 有村 誠, 「学生による企画展の振り返り：金沢大学における博物館実習の事例」, 金沢大学資料館紀要, 12, 1-20, 2017年
9. 竹村松男, 「伝・西教授遺愛の渾天儀の特徴」, 金沢大学資料館紀要, 5, 17-30, 2010年
10. 金沢大学資料館, 金沢大学資料館だより, 51, 2016年